

**「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」
アンケート調査結果**

～平成17年度の成果と課題～

**産業人材担当参事官室
平成18年5月19日**

1. 平成17年度総括(アンケート調査結果:総論)

キャリア教育の「担い手」となった産業界、教育界(実施校)、地域行政等の約8割が、生徒達の働く意義・やりがいの醸成、仕事に必要な基礎的な能力の気付きを作る良い機会になったと回答。産学連携によるキャリア教育の効果を実感していることが明確になった。

また、受講生の約9割弱が「様々な仕事があること」が分かった、約7割が「学校の勉強と仕事等の関係」が分かったと回答。キャリア教育が生徒に与える効果も確認された。

他方、推進の体制については、年度途中からの開催ということもあり、「授業時間」や「事前打ち合わせ」が、必ずしも十分に確保されていない、教師と産業など関係者間の役割分担についても、再調整の余地が有る等の課題が指摘された。

カリキュラムについては、子供が興味を持って取り組めるという点で評価は高かったものの、国語や算数など教科の勉強の重要性に気づき、学ぶ意欲の向上につなげる点、子供達が自主的に「考え」、「行動する」点については、更なる工夫が必要とされた。

本年度の事業執行を通じて、産業界・教育界・地域行政が相互に意見交換ができる「顔の見える」ネットワークが構築されてきたことが確認された。他方、保護者・地域住民を巻き込んで事業の効果を高めていくことの必要性が指摘された。

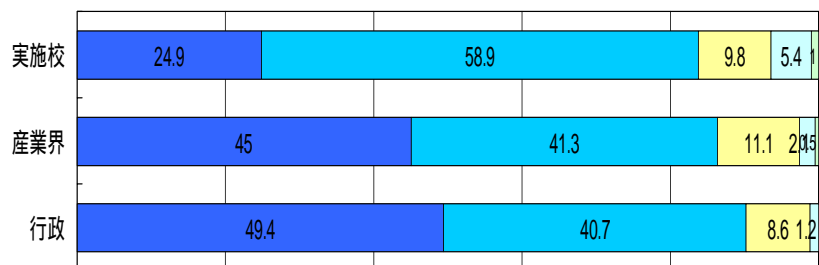
全国で展開されるキャリア教育の内容を比較したアンケート調査は全国初の試みであるが、結果を平成18年度事業へと反映させるとともに、文部科学省とも一層の連携を図り、「キャリア・スタート・ウィーク」事業(中学2年生が原則週5日間の職場体験する事業)など、職業観教育に広く本事業の成果が活用・反映されるよう努めていく。

2. 平成17年度 キャリア教育の取組（「担い手」側の評価）

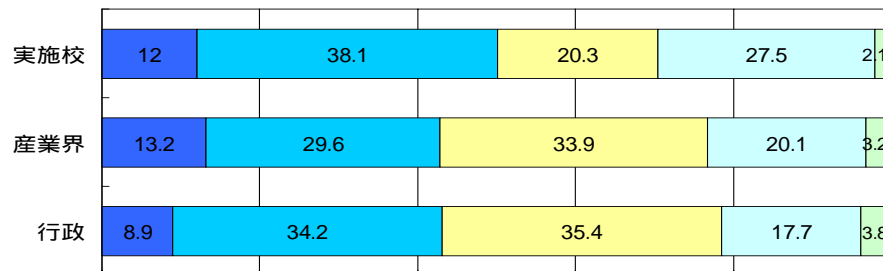
関係者の8割近くが、生徒達の働く意義の醸成、「仕事に必要となる基礎的な能力」に気付くための良い機会になったと回答し、全体としては高い評価。

平成17年度は、年度途中からの開始ということもあり、「授業時間の確保」が不十分と感じている割合が高いものの、体系的なカリキュラムは構築されつつある。

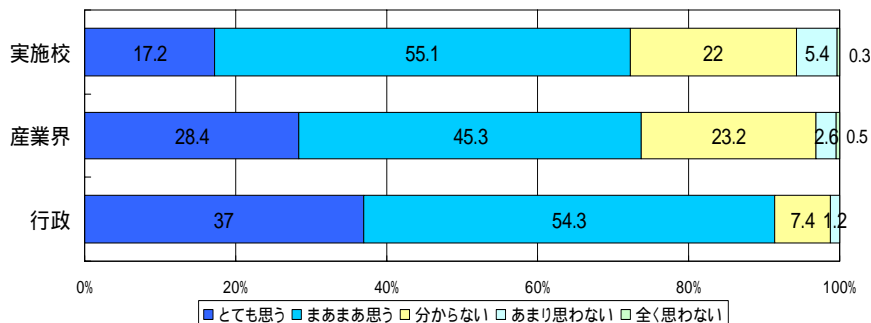
「働くイメージや意義の喚起」



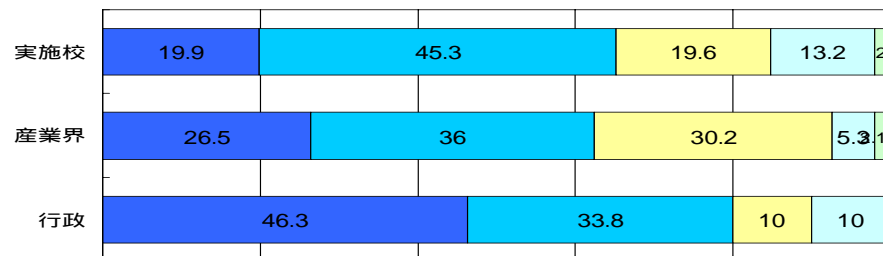
「授業時間の確保」



「仕事に必要となる基礎的な能力の
気付き、成長について」



「体系的カリキュラム」

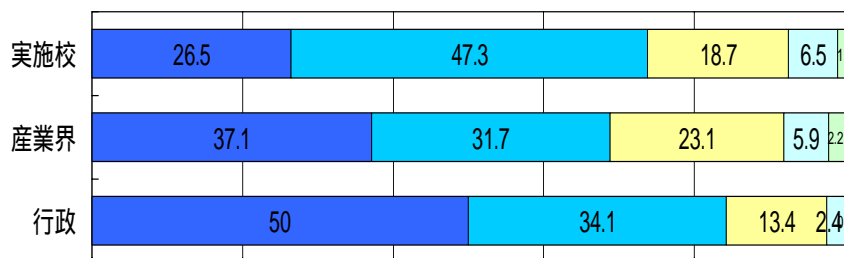


2. 平成17年度 キャリア教育の取組（「担い手」側の評価）

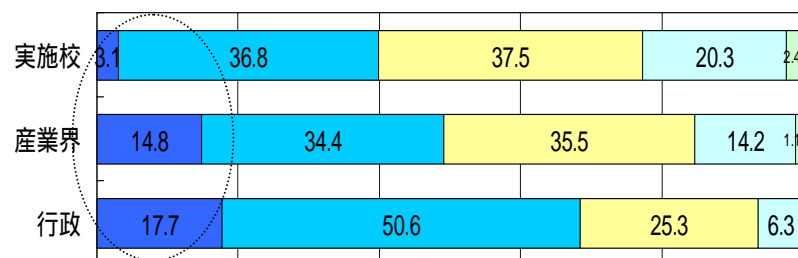
コーディネーターの役割に対する評価は概ね高く、関係者間で自由に意見交換できる環境が構築されつつある点は高く評価できる。

他方、保護者を始めとした地域住民への理解促進には遅れが見られる。地元イベントへの参画や学級通信の配信など、効果的な情報発信を行いながら、産学連携によるキャリア教育を一層推進していくことが重要。

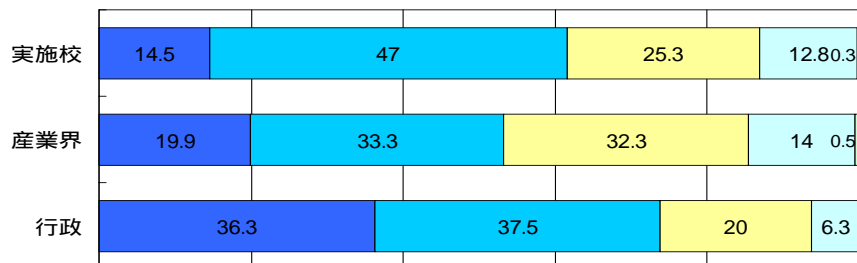
「コーディネーターの役割」



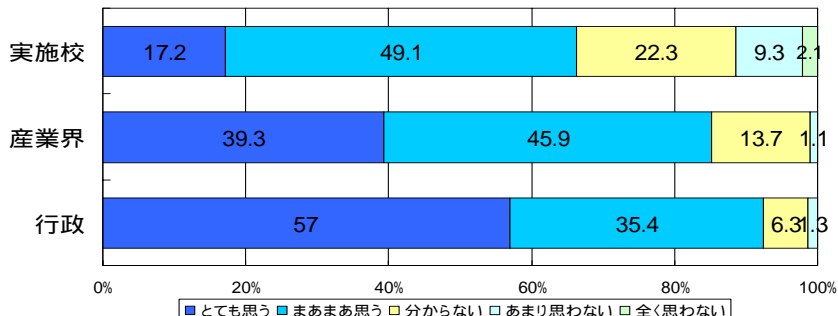
「キャリア教育に関する地域における理解が促進されたか」



「関係者間で自由に意見交換できる環境が構築されたか」



「来年度も同程度の協力が可能か」

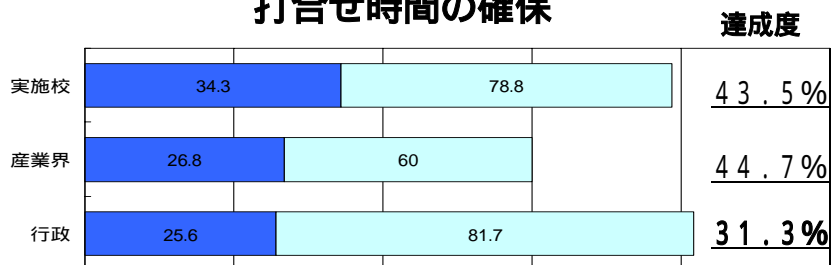


2. 効果的実施に向けた有効性と達成状況(「担い手側」の評価)

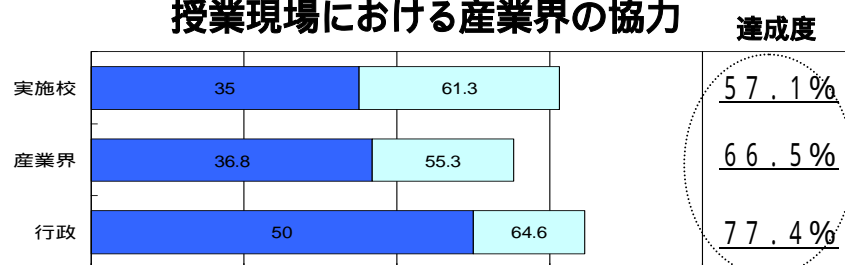
キャリア教育を効果的に実施していくためには、「打合せ時間の確保」、「体系的なカリキュラム」、「授業現場における産業界の協力」、「役割分担の明確化」が有効と考えられる。

他方、平成17年度は、「授業現場における産業界の協力」は、一定程度達成されてきたが、特に、「カリキュラムの作成段階からの産業界の協力」、「打合せ時間の確保」や「地域住民への理解促進」の達成度は低く、平成18年度以降の早急な改善が必要。

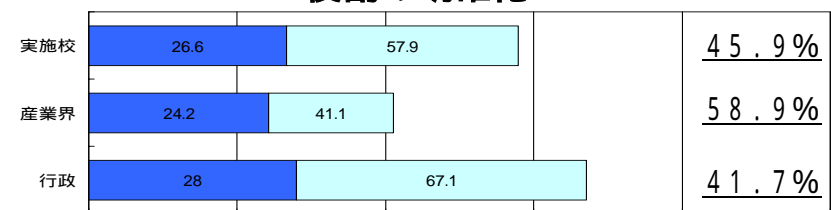
打合せ時間の確保



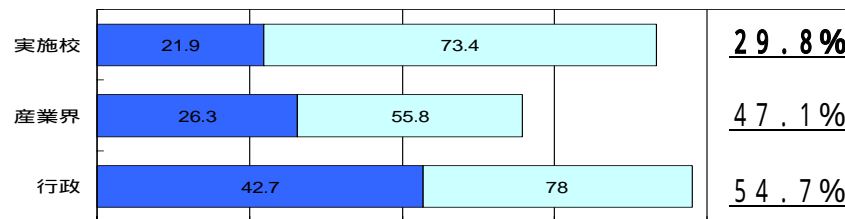
授業現場における産業界の協力



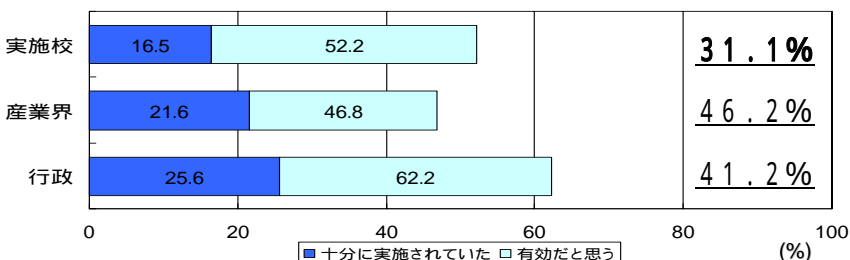
役割の明確化



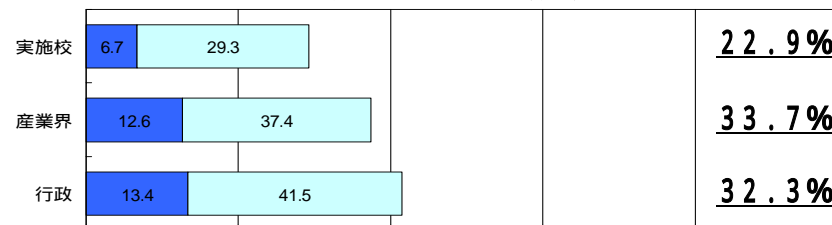
体系的なカリキュラム



カリキュラム作成段階からの産業界の協力



地域住民への理解促進

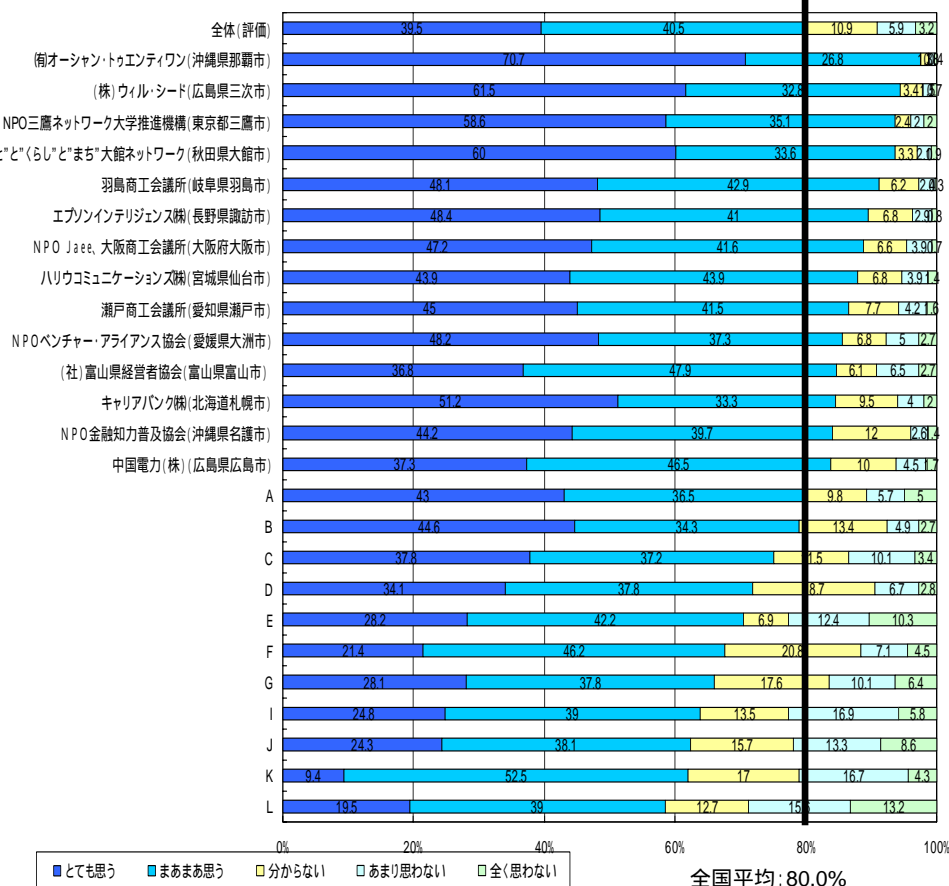


3. キャリア教育の効果(生徒による評価 :カリキュラムの面白さ)

カリキュラム内容については、約8割の生徒が「面白い」と答えており、各事業において生徒達が主体的に取り組みやすいように工夫されたものとなっている。

特に、生徒達が学んできたことが実際に具体化される等、「達成感」を味わえる内容となっている事例や、「子供でも理解しやすい体系だったカリキュラム」となっているものへの評価が高い。

「カリキュラムの面白さ」について(生徒回答)



<効果的な取組事例>

- 生徒達に「達成感」を味わえる内容となっている。
- 「きりたんぼ」を米作りから企画・販売まで実施(大館市)
 - キャラクター作りからアニメを制作・発表(三鷹市)

- 生徒の視点で理解しやすいカリキュラムとなっている
- 働く人の思いや会社でのチームワークの仕組みなど「活かした情報」をカリキュラムの各段階で、企業の方から実際に語ってもらう。(大阪市)

- ゲーム手法の活用により生徒の関心を高める内容となっている。(三次市、那覇市)

<効果が余り見られない取組事例>

- 授業時間の確保の関係もあり、実施校によっては、マナー講座や進路指導的な内容にとどまっているもの。

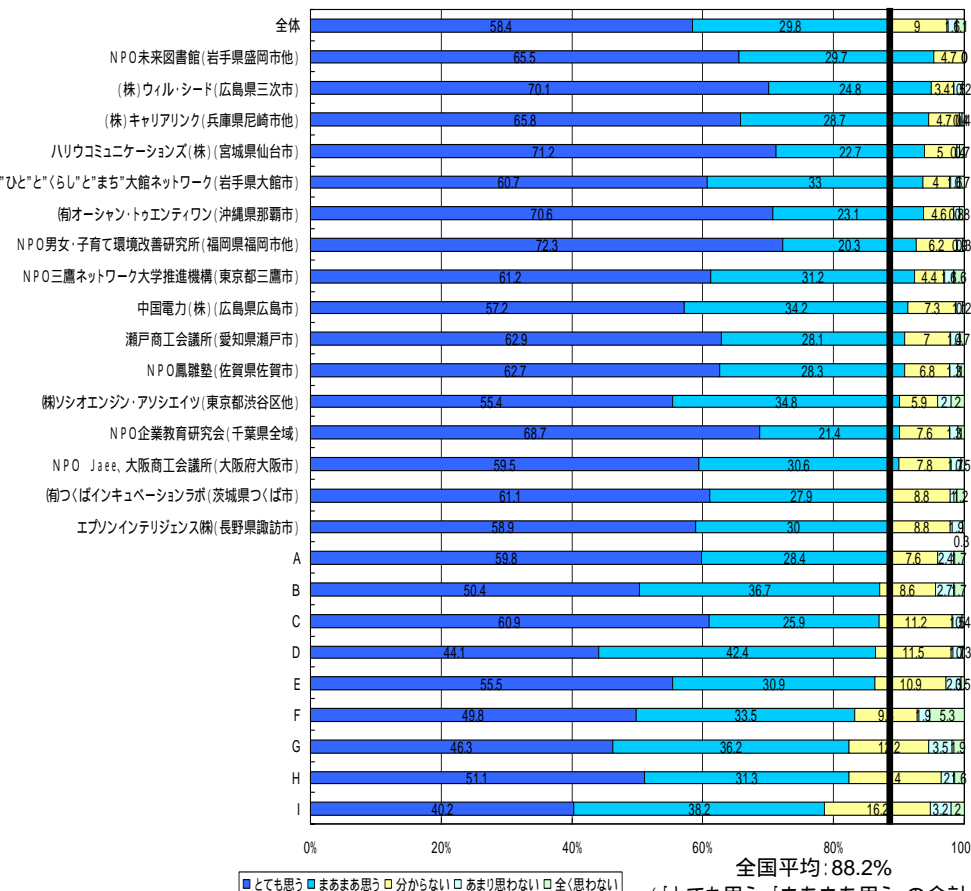
- インタビューやモノ作り等の体験学習の際に、自分が希望する企業等にいけないケースが多いもの。

3. キャリア教育の効果(生徒による評価) : 職業観の醸成)

約9割弱の生徒が授業を通じて、「様々な仕事があること」が分かったと回答しており、多様な職業観の醸成に成果が見られる。

特に、「仕事の一連の流れ」や、「企業や産業を構成する多様な担い手」が分かる事例での評価が高い。また、授業実施に際し、実施校の教員と連携の工夫がされている取組での評価が高い。

「様々な仕事があることが分かった」について



<効果的な取組事例>

作成から企画・販売までの一連の仕事の流れを体験することができる内容となっている。(瀬戸市、佐賀市)

特定の産業や企業を対象としたカリキュラムでも、様々な部署の関係者が授業を実施する内容となっている。(三鷹市、千葉市全域)

授業の実施に当たり、事前に研修会等により、教員に対する意識喚起を十分行い、学校の教員が主体的に授業を展開。学校で学ぶ科目との関係性を含め、生徒視点の理解しやすい説明体系が構築されている。(那覇市、仙台市)

<効果が余り見られない取組事例>

特定の産業や企業に特化した授業構成となっており、授業内容も特定の産業(「企画書作成」等)が中心となっている。

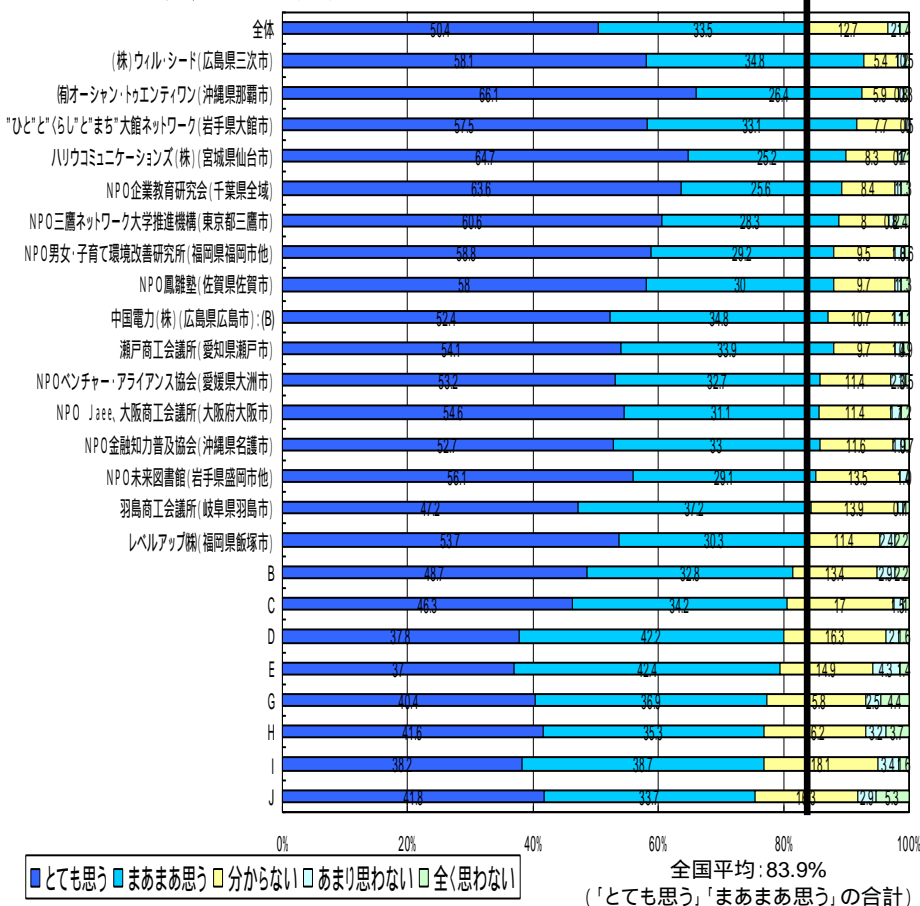
サービス産業など、対象が広範に渡っている事例は、生徒が具体的なイメージを得られにくい。地域産業への理解を深める工夫が、より求められる。

3. キャリア教育の効果(生徒による評価 : 働くやりがいい)

約8割の生徒が授業を通じて、「働くことは大変だがやりがいがある」と感じており、多くの生徒が、多様な職業観の醸成とともに、働くことに対するやりがいを見いだすことにつながっている。

特に、カリキュラムの各段階で、「本物から直接学ぶ体験」を組み込んでいる事例や、明確な役割分担の下、最終目標に向けてグループワークを実施した事例で効果が高い。

「働くことは大変だがやりがいがある」について



< 効果的な取組事例 >

職人のプロの技に触れる機会や、企業等で活動している人と意見交換する等、「本物から直接学ぶ体験」をカリキュラムの各段階に入れている。
 (瀬戸市、千葉市、仙台市、那覇市)

「アニメ制作」や「きりたんぼ販売」等、特定の目標や成果物を目指して、明確な役割分担の下、グループワークを実施。(大館市、三鷹市、那覇市)

< 効果が余り見られない取組事例 >

地域の産業界と協力して授業を実施しているものの、産業界の協力者の、生徒達に伝える能力にバラツキが見られる。

授業時間数が十分に確保できず、「体験」学習が「事前」や「事後」学習と効果的に連携できていない案件。

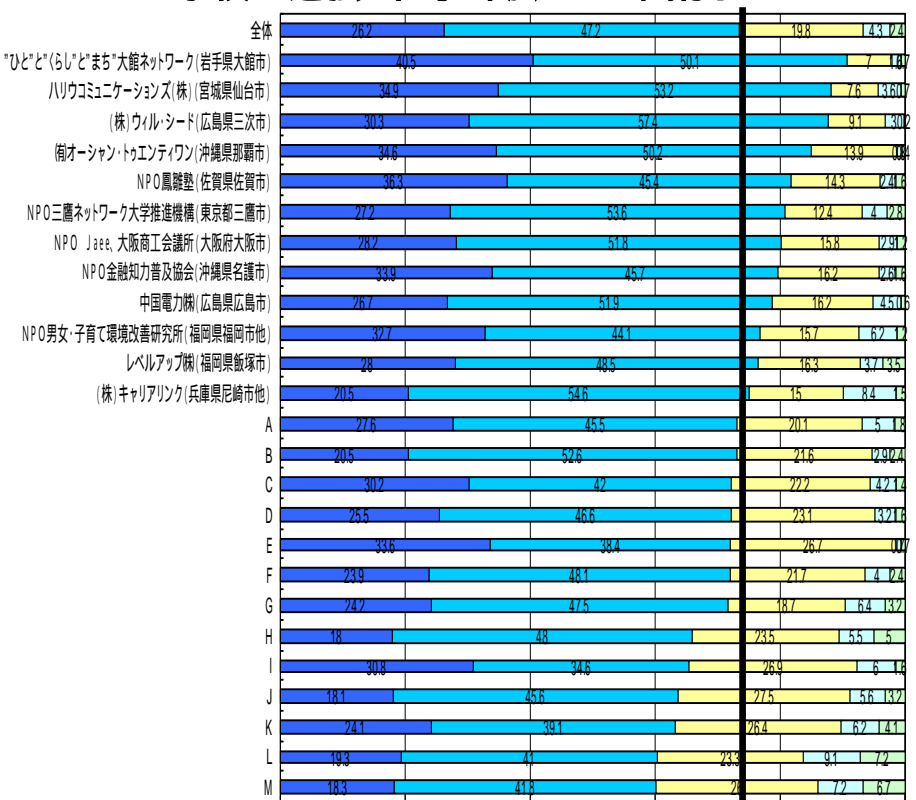
授業の目的が最後まで生徒達に伝わりにくかった。

3. キャリア教育の効果(生徒による評価 : 学校の勉強との関係)

「学校の勉強と仕事・働くこととの関係」については、約7割の生徒が授業を通じて「分かった」と感じている。

特に、教員研修の開催等により、コーディネーターと実施校の教員とが認識を共有している事例や、正課授業との関係を念頭においたカリキュラムを構成している事例で効果が高い。

「学校の勉強と仕事・働くこととの関係」について



■ とても思う ■ まあまあ思う ■ 分らない ■ あまり思わない ■ 全く思わない
 全国平均: 73.4%
 (「とても思う」「まあまあ思う」の合計)

< 効果的な取組事例 >

生徒達に普段の授業を教えている学校の先生に、「学校の勉強と仕事・働くこととの関係」を理解してもらうことが重要。そのための教員研修や、マニュアルの作成を実施している。(那覇市、三次市)

企画から販売まで、仕事の一連の流れを体験する中で、正課で学ぶ学習内容を意識するカリキュラムとなっている。(大館市、佐賀市)

時間が短くても、毎時間の授業の目的や位置付けが生徒にも明確に示されている。(仙台市、大阪市)

< 効果が余り見られない取組事例 >

授業がマナー講座や、産業の歴史を学ぶことに偏っている。

生徒に与えられる課題(商品開発やインタビュー等)について、実施する意義や趣旨について、生徒の理解が十分に得られないまま、授業が進展してしまった。

3. キャリア教育の効果(生徒による評価 : 社会で必要な基礎力)

多くのプロジェクトでは、グループワークを中心とした授業となっており、生徒の約7割が「前に踏み出す力」「チームで働く力」が必要と感じている。

一方、「考え抜く力」については、授業全体を幾つかのクールに分けて、クールごとにフィードバックの時間を設けることにより、授業を振り返ったり、しっかりと考える時間を確保している事例では効果が見られるが、全体として低調な結果となっている。

「仕事をする上でどのような「力」が必要だと思ったか」

	民間コーディネーター	前に踏み出す力 (アクション)	考え抜く力 (シンキング)	チームで働く力 (チームワーク)	回答数 (生徒数)
北海道	キャリアバンク(株)(北海道札幌市)	46.3	40.4	62.8	253
	NPO小樽職人義塾(北海道小樽市)	71.9	43.2	62.0	213
東北	NPO法人未来図書館(岩手県盛岡市他)	71.7	63.4	58.5	149
	“ひと”と“くら”しと“まち”大館ネットワーク(秋田県大館市)	73.3	49.6	78.0	433
	ハリウコミュニケーションズ(株)(宮城県仙台市)	77.3	62.9	74.1	284
関東	株ソシオエンジン・アソシエイツ(東京都23区)	74.8	55.9	63.4	205
	NPO三鷹ネットワーク大学推進機構(東京都三鷹市)	65.7	43.0	82.1	251
	NPOキーパーソン21(神奈川県川崎市)	77.2	59.1	71.1	1,544
	NPO企業教育研究会(千葉県全域)	79.1	58.8	71.8	616
	つくばインキュベーションラボ(茨城県つくば市)	77.1	58.9	71.3	698
	エプソンインテリジェンス(株)(長野県諏訪市)	76.5	54.6	68.9	865
中部	瀬戸商工会議所(愛知県瀬戸市)	77.3	50.9	72.7	1,501
	羽島商工会議所(岐阜県羽島市)	70.3	51.7	65.7	291
	富山県経営者協会(富山県富山市)	68.8	46.9	69.4	416
近畿	NPO Jaaa、大阪商工会議所(大阪府大阪市)	63.9	51.2	78.3	412
	NPO南大阪地域大学コンソーシアム(大阪府堺市)	65.8	55.0	79.8	380
	(株)キャリアリンク(兵庫県尼崎市他)	73.1	40.7	44.7	280
中国	中国電力(株)(広島県広島市)	70.2	54.6	84.6	469
	(株)ウィル・シード(広島県三次市)	79.4	60.3	90.2	408
四国	NPOベンチャー・アライアンス協会(愛媛県大洲市)	62.6	58.0	79.9	222
九州	NPO男女・子育て環境改善研究所(福岡県福岡市)	66.0	41.0	67.6	346
	レベルアップ(株)(福岡県飯塚市)	76.2	55.4	80.8	458
	NPO鳳雛塾(佐賀県佐賀市)	72.8	54.7	74.7	645
沖縄	南オーシャン・トゥエンティワン(沖縄県那覇市)	81.9	78.6	91.2	245
	NPO金融知力普及協会(沖縄県名護市)	74.6	57.6	72.8	707
計(平均)		71.8	53.9	72.7	12,291

< 効果的な取組事例 >

生徒達が授業で学んだことを振り返り、自発的に考え、形にする時間を十分に設ける。(那覇市)

- 授業を複数のクールに分け、各クールの目的を共有するとともに、クール毎にフィードバック(振り返り)の時間を設け、じっくりと「考える」時間を確保する。
- フィードバックの際には、5W1Hを考えるように工夫する。

カリキュラムが、生徒達から働いている大人へ積極的に働きかけることが必要な内容となっている。

- フリーペーパーを制作する案件(渋谷区他、福岡市)
- 親の職業を調べる(仙台市、つくば市)

少人数のグループを一つの会社と見立て、各自が明確な役割分担の下、販売体験、企画書作成、制作等を行う。

- 販売体験(大館市、瀬戸市、大洲市、鳳雛塾)
- 企画書作成(堺市、大阪市、飯塚市)
- 制作(三鷹市:アニメ作成、広島市:CM作成)

グループの中で、役割分担をする中で、自分や仲間達の強みや弱みを理解し、各自にあった役割があることを理解できるように、指導の工夫をしている。(三鷹市、那覇市)

3. キャリア教育の効果(生徒による評価 : 授業後の主体的取組)

本プロジェクトの授業後、約6割の生徒が「将来なりたい職業について自分で考えたり、調べたりするようになった」と回答している。

他方、「学校の勉強に前向きに取り組むようになった」と回答する学生の割合は総じて低く、カリキュラムの中で、学ぶ意欲の向上に繋がる気付きを与え、正課の中でもそれを再確認するような工夫が課題。

「授業を受けた後、自分でやってみたこと」について

		家庭や友達と仕事や職業について実際に話すようになった	学校の勉強に前向きに取り組むようになった	将来なりたい職業について、自分で考えたり、調べたりするようになった	授業中に知った企業や産業について、興味や関心を持つようになった
北海道	キャリアバンク㈱(北海道札幌市)	23.0	7.9	40.8	62.3
	NPO小樽職人義塾(北海道小樽市)	45.2	27.4	53.4	22.6
東北	NPO法人未来図書館(岩手県盛岡市)	34.8	24.4	57.8	43.7
	「ひと」と「くら」とまち大館ネットワーク(秋田県大館市)	32.2	33.0	64.7	37.1
	ハルワコミュニケーションズ(株)(宮城県仙台市)	39.6	31.3	66.8	41.9
関東	株式会社エンジン・アソシエイツ(東京都23区)	37.0	21.4	48.6	32.9
	NPO三鷹ネットワーク大学推進機構(東京都三鷹市)	28.7	31.3	61.3	42.6
	NPOキーパーソン21(神奈川県川崎市)	32.0	30.9	58.1	28.6
	NPO企業教育研究会(千葉県全域)	38.3	30.9	64.3	37.9
	桐つ(ば)インキュベーションラボ(茨城県つくば市)	44.2	42.4	54.2	39.8
中部	エブソンインテリジェンス㈱(長野県諏訪市)	30.5	28.9	58.5	38.0
	瀬戸商工会議所(愛知県瀬戸市)	40.9	29.4	62.4	34.2
	羽島商工会議所(岐阜県羽島市)	29.5	40.3	50.4	31.8
	富山県経営者協会(富山県富山市)	28.0	24.8	56.3	37.3
近畿	NPO Jsee、大阪商工会議所(大阪府大阪市)	31.9	24.3	63.6	36.6
	NPO南大阪地域大学コンソーシアム(大阪府堺市)	23.4	34.1	49.8	35.8
	(株)キャリアリンク(兵庫県尼崎市他)	45.5	23.6	62.4	29.3
中国	中国電力(株)(広島県広島市)	28.4	30.7	57.0	31.4
	(株)ウィル・シード(広島県三次市)	32.1	29.5	70.8	36.8
四国	NPOベンチャー・アライアンス協会(愛媛県大洲市)	33.3	30.7	52.4	43.4
	NPO男女・子育て環境改善研究所(福岡県福岡市)	35.3	27.6	60.8	28.6
九州	レベルアップ㈱(福岡県飯塚市)	34.8	33.0	47.3	39.6
	NPO鳳雛塾(佐賀県佐賀市)	41.8	31.3	48.1	30.9
	桐オーシャン・トゥエンティワン(沖縄県那覇市)	47.5	40.4	62.3	48.0
沖縄	NPO金融知力普及協会(沖縄県名護市)	34.8	30.5	56.6	33.9
	全体平均	35.2	30.5	58.0	35.6

< 効果的な取組事例 >

地場産業など、地域に存在する産業資源を有効に活用し、家族や友人と話すきっかけが多くなるように工夫されている。(小樽市、瀬戸市、那覇市)

授業のカリキュラムの一環として、親などと仕事や職業について会話する機会が設けられているなど、授業後も家庭等で仕事について会話する土台が形成されている。(仙台市、つくば市)

教員が主体的にキャリア教育の授業を展開できるように、正課授業と社会や仕事との関係性について、教員研修等を通じて、理解する取組を実施している。(堺市、那覇市)

企画・制作・販売するカリキュラムにおいて、教員と連携し、「相手に伝える」ことは国語との関係、「損益を考える」場合には算数との関係、商品の特徴や地場産業の理解は理科や社会との関係を、生徒自身が理解できるような工夫を実施している。(瀬戸市、佐賀市、飯塚市、那覇市)

4. キャリア教育の効果(保護者による評価:キャリア教育への参画)

保護者の多くが「カリキュラム内容について説明を受けていない」と答えるなど、モデル事業によるバラツキはあるものの、全体的に保護者の巻き込みが不十分である。

保護者の中には、授業の一部や成果発表会を土曜日に開催する工夫などを通じて、親子が共同で参加できるような配慮をして欲しいとの指摘も多く見られる。

保護者の「キャリア教育への参画」について

		カリキュラム内容について説明を受けた	家庭で家族の職業などについて話し合った	成果発表会等に参加した	特に協力していない
北海道	キャリアバンク㈱(北海道札幌市)	22.0	23.7	20.3	32.2
	NPO小樽職人義塾大学校(北海道小樽市)	16.5	34.0	2.1	51.5
東北	NPO法人未来図書館(岩手県盛岡市他)	13.7	24.5	23.5	53.9
	“ひと”と“くらし”と“まち”大館ネットワーク(秋田県大館市)	8.1	32.8	19.1	51.5
	ハリウコミュニケーションズ(株)(宮城県仙台市)	10.9	27.7	6.7	63.0
関東	株式会社エンジン・アソシエイツ(東京都荒川区他)	34.9	54.0	17.5	34.9
	NPO三鷹ネットワーク大学推進機構(東京都三鷹市)	31.9	25.5	35.8	35.8
	NPOキーパーソン21(神奈川県川崎市)	8.8	27.8	1.8	66.5
	NPO企業教育研究会(千葉県全域)	9.8	23.4	1.6	69.0
	㈱つくばインキュベーションラボ(茨城県つくば市)	19.8	49.7	3.8	38.7
中部	エブソインテリジェンス㈱(長野県諏訪市)	12.3	29.7	14.9	52.3
	瀬戸商工会議所(愛知県瀬戸市)	15.5	47.6	10.0	39.9
	羽島商工会議所(岐阜県羽島市)	45.2	43.2	15.5	27.7
近畿	富山県経営者協会(富山県富山市)	1.0	33.3	0	61.9
	NPO Jace、大阪商工会議所(大阪府大阪市)	11.4	25.0	25.0	52.3
	NPO南大阪地域大学コンソーシアム(大阪府堺市)	25.4	14.5	10.9	58.7
中国	(株)キャリアリンク(兵庫県尼崎市他)	-	-	-	-
	中国電力(株)(広島県広島市)	11.2	37.5	7.4	50.6
四国	(株)ウォル・シード(広島県三次市)	35.4	11.0	11.0	40.0
	NPOベンチャー・アライアンス協会(愛媛県大洲市)	16.8	26.8	17.4	49.0
九州	NPO男女・子育て環境改善研究所(福岡県福岡市)	12.7	25.4	3.2	64.3
	レベルアップ㈱(福岡県飯塚市)	31.2	24.1	31.9	43.3
	NPO鳳雛塾(佐賀県佐賀市)	21.5	47.6	24.4	30.9
沖縄	㈱オーシャン・トゥエンティワン(沖縄県那覇市)	19.5	28.2	26.2	51.7
	NPO金融知力普及協会(沖縄県名護市)	5.0	26.9	4.4	70.0
全体平均		17.1	33.3	13.5	49.2

<効果的な取組事例>

保護者会等において、事前にカリキュラムの内容を説明。

カリキュラムが、地場産業や地域の中堅・中小企業など、地域に存在する産業資源を有効に活用しており、家庭でも仕事について話すきっかけが多い内容となっている。
(小樽市、荒川区他、瀬戸市、那覇市)

地元の祭りなどのイベントで、展示や販売体験等を実施することにより、保護者を含む地元住民に対して理解の促進と、生徒の意欲喚起を図る。
(三鷹市、飯塚市、佐賀市)

実施校の校長先生や教員の協力の下、学級通信などで、カリキュラムの内容や取組の進捗状況を、月1~2回程度情報発信する。(福岡市)

授業の一部を授業参観日などに当てるなどして、授業のプロセスを保護者に公開して実施している。
(大阪市、那覇市)

販売会などに対し、会場設営などから保護者の協力を得ながら実施し、またお客としても参加してもらう。
(大館市、大洲市)

注: 網掛けは、全国平均を上回っている案件。ただし、「特に協力していない」項目については、全国平均を下回っている事例を網掛けしている。

5.まとめ

【カリキュラム】

地域の産業界や実施校のニーズを抽出した上で、事前 - 体験 - 事後学習など、体系的なカリキュラムを構築することが重要。特に、以下の点に留意すると効果的と考えられる。

体系的なカリキュラムのポイント	
事前段階 (巻き込み)	導入段階から授業の目的が明確で、カリキュラムの内容や趣旨が生徒にも理解しやすい。ゲーム手法等を活用して、生徒が関心を持ちやすく主体的に取り組める内容となっている。産業界のプロの方による講話など「本物から直接学ぶ体験」がある。産業や企業を構成する「様々な担い手の存在やその役割」が理解できる。
体験段階 (実践)	特定の目標や成果物を目指して、少人数(5～8人程度)グループワークを行う。グループの中で明確な役割分担を行う。その中で、自分や仲間達の強みや弱みを理解し、一人ひとりが自分の能力を発揮できる役割があることを理解できる。作成から企画・販売など一連の仕事の流れを体験することができる内容となっている。仕事の一連の流れを体験する中で、学校の授業で学ぶ学習内容との関係を理解できる。自分の親を始めとして、働いている大人へ積極的に働きかけることが必要な内容となっている。
事後段階 (振り返り 変化)	グループで学び実践してきたことが、成果発表会や商品化など具体化され「達成感」を経験できる。授業を踏まえて、自分の将来の夢を考えたり、自分を見つめ直すことができる。単なる感想では無く、「何が良くて」、「どうして悪かったのか」等考えることができる。キャリア教育の授業を通じて、学校で学ぶ内容と仕事や職業との関係性や、学ぶ意義が理解でき、学ぶことに対する意欲が高まる内容となっている。

まとめ

【授業実施】

産学連携により効果的にキャリア教育を実施するためには、カリキュラム作成、授業実施のそれぞれの段階で産業界の参画が重要である。

正課の授業内容と仕事や職業との関連性を意識して、キャリア教育を実施するためには、学校現場の先生の理解と協力が不可欠。

- ・ 授業前に「学校の勉強と仕事・働くことの関係」を理解してもらうための教員研修等を実施。
- ・ 授業を実際に実施する担当教員とも、本事業の意義・趣旨の共有化を行う。 等

授業全体をいくつかのクールに分けて、定期的にフィードバック(振り返り)の時間を設けることにより、授業の目的を共有していくことが有効。

【地域ネットワークの構築】

授業開始前の「打合せ時間」や授業実施後の「フォローアップ」の時間を確保し、関係者間の自由な意見交換と事業目的・内容の共通理解を深めることが重要。

保護者を始め、地域住民への理解を促していくことが非常に重要。特に保護者は、予め授業内容を知っていれば、もっと積極的に協力したかったとする意見も多い。

【保護者】

- ・ 授業参観日や保護者会の日に授業を実施する。また、成果発表会を土日に開催するなど。
- ・ 学級通信などにおいて、カリキュラムの内容や進捗状況などを定期発信する。 等

【地域住民】

- ・ 地元のお祭りなどのイベントにおいて、作品の展示や販売体験を実施する。
- ・ 地域の中堅・中小企業、ベテラン人材から大学生まで参加しやすい環境を整備する。 等

(参考)アンケートの実施について

【実施目的】

平成17年度にモデル的に実施した25件について、受講生や協力関係者などの満足度を調査し、評価材料の一つとする。

【スケジュール】

アンケート実施期間：平成18年 2月20日～28日

【実施方法(右図参照)】

【アンケート概要】

生徒合計：12,291人
保護者合計：5,130人
実施校合計(校長、担当教員)：303人
産業界：192人(社)
地域行政(教育委員会等)：85人

【留意点】

- ・ 生徒向けのアンケートについては、入試等の時期と重なった学校もあり、一部限定的になっている。
- ・ その他は、任意の協力により回答を得ている。

(実施方法)

